



Why I am in JAPAN

[第4回]

創英には多くの海外出身者がいます。そんな彼らが「なぜ日本を選んだのか」そのきっかけを連載形式でご紹介します。連載第4回は、ブライアン弁護士。どうしてまず日本に来ることになったのか…に迫ります！



弁護士(米国)

Bryan = Kirkpatrick

■来日までの経緯

日本で生活を始めて二年以上が経ちました。学生時代に一年間のフランス留学をしたことがありますので、アメリカを離れて生活するという点では、日本は二つ目の国です。まだ二十代後半だった頃、アメリカから名古屋へ出張したのですが、これが日本に住んでみたいと思い始めた最初のきっかけとなりました。その後、妻の実家がある鹿児島へ行く機会に何度か恵まれ、いつか日本で暮らしたいとより強く思うようになりました。しかし日本での生活が実現できるのは、何年も後になってからでした。

エンジニアとして、その後は弁護士としての実務経験を積み、様々な職務上の目標に取り組み、達成することができました。また子供たちが新しい国の生活に適應できる年齢も気がかりでした。こういった観点から、ある日、状況を動かすには今が最もよいタイミングだと判断するに至りました。人生に大きな変化をもたらす決断したので、後になってああすればよかった、など考えることが無いよう、自分にできる全てをこの計画の実現に投じると決心しました。

もちろん家族の生活を支えることができるか、日本語という観点から懸念しておりました。日本滞在が一時的な駐在となる雇用形態は望んでおらず、日本のビジネス文化の中で働くことを重要視していましたので、米国弁護士を受け入れたいと考える日本の事務所を希望し、これに限って職場を探すことにしました。幸運なことに、創英は同じ時期に海外実務のさらなる拡大を模索しており、東京オフィスを訪ね後、即断しました。

仕事を見つけるというおそらく最大の難関をクリアし、日本で暮らす計画が実現するのは時間の問題と思われました。家、車、その他ほとんどの所有物(=ゴルフクラブを除く所有物)を売り払い、その後まもなく、オレゴン州ポートランドでの生活に別れを告げました。突如、未知の未来を迎えることとなり期待に溢れました。

■来日後の数多くの発見と冒険

日本に来てからの数カ月の間、多少は手間取ることもあり(「なぜ私名義の銀行口座を開設できない!?!」)、大変な環境に身を置いてしまったものだ、と幾度か思った

かもしれません。しかし創英では同僚の親切な支援に恵まれ、滞りなく新たな職場に馴染めましたので、概して日々の生活における心配事なく、すぐに新しい日本での生活を楽しむことができるようになりました。

最近では、日々出会う困難を冒険のように考えています。例えば、メニューの日本語を読むことができない際に、本日の「*o-su-su-me*」(お勧め)は何ですか、とお店の方に聞くのが大変好都合だと分かりました。こうして自分では選ばないような新しいメニューを楽しむことができるのです。また、写真が付いていない食券自販機でも同じメソッドを適用します。どれでもいいのでボタンを押し、お店の方にチケットを渡すと、絶妙なグルメ冒険を満喫することができます。今回は、なるほど、カレーライスにスパム®(Hormel Foods社の登録商標)、最高!



「さて、今日はどのボタンを押しみよう・・・」

一方、帰りにどの路線を使うかについてよく調べずに選ぶことや、駅で何番のプラットフォームの方が家に早く着くか当て推量するのは推奨されないと分かりました。特に飲み会で遅くなり終電の時間が近い場合は尚更でした。夜中に帰れなくなり、見知らぬ境界で足止めとなった折には、自宅までのタクシー代とほぼ同じ金額を払いカプセルホテル冒険ができるのです。

日本で暮らしはじめてわずか二年のうちに数多く学ぶことができましたが、携帯の画面を見ながらうまく電柱との衝突を避ける技術や、地下鉄でうとうと居眠りしている乗客の様に、降りる駅で魔法のごとく目を覚ますことなどは、習得にかなり時間を要すると思われま

す。新たな生活を送る日本について知らないことが多数ある中、学びの過程で出会う冒険を一つ一つ味わいたいと考えております。